

牛久：学校周辺に見る自然

第8号 みずべ公園

2016年7月19日発行

＜ 初夏のみずべ公園・生きもの観察 ～⑥植物に集まる虫たち - その他のキク科＞

こんにちは。5/12ひたち野うしく小4年生と歩いたみずべ公園、6、7号ではハルジオン、ブタナとキク科の仲間を紹介しました。今回は、それ以外のキク科の仲間と虫たちです。



まず、みずべ公園でおなじみのオオジシバリ。田のあぜなど、湿り気の多いところでよく見られ、花(の集まり)は平らで上向きに咲くのでハナアブ類や小型のハナバチ類がよくやって来ます。おもしろいことに、この花の雌しべは、他の花からの花粉を受け取れないと先がぐるりと丸まって、自分の雄しべの花粉をつけて種子をつくりま

す。オオジシバリ(左)と、その蜜や花粉を求めてやってきたホソヒラタアブ(下-上)、ハナバチの仲間(下-下)。



続いて、コウゾリナ。茎や葉などに硬い毛があり、なでるとザラザラするので「顔剃菜(かおそりな)」、あるいはその道具より「剃刀菜(かみそりな)」から名づけられたと考えられています。見つけたら、軽くなでてみましょう。小型のハナバチが来ていました。

コウゾリナの蜜を吸う、ハナバチの仲間。



黄色いキク科の花は、まだまだあります。もっと小さい花（の集まり）で、**オニタビラコ**。冬はロゼットで寒さに耐え、春になると上へ上へと茎を伸ばして花をつけます。この花には小型のハナバチ類やハナアブ類、ハエの仲間がよく来ます。ハチがとまると、花ごとゆらゆら揺れます。

オニタビラコ(左)と、その蜜を吸うハナバチの仲間(下)。



ニガナ(左)と、その蜜を吸うハナバチの仲間(右)。

こちらも黄色の小さな花ですが、花びらのように見える舌状花の数はずっと少ないですね。よく似た仲間もありますが、この舌状花の数が5～7枚と特に少ないことから**ニガナ**と分かります。やはり小型のハナバチ類がよく訪れるようです。



最後に大きくなると高さ1mほどにもなる**キツネアザミ**と、北アメリカからやって来た**オオキンケイギク**。オオキンケイギクは栽培されていたものが野生化したと考えられ花もきれいですが、特定外来生物に指定されていて栽培も禁止されています。

【理科支援員：宮内】

背が高くなるキツネアザミ(左)と、特定外来生物のオオキンケイギク(右)。